

親子の絆 父親の役割



女子栄養大学
染谷 忠彦 常任理事
学園政策、運営担当

連載 第5回 「保護者」

保護者講演の締めくくりに、必ず、「親子の絆6か条」を説明する。ある社会心理学者が、世界の親と子との関係を次のように説明したものである。

- ① 我が家の「おきて」をつくる
- ② 家のボスは誰かをはつきりさせる
- ③ 父親、母親の役割を明確にする
- ④ 子どもの喜怒哀楽を共有する

⑤ 子どもにも集団生活をさせる

⑥ 食事をきちんとする
いずれも共感できる、あたりまえの事。しかし、なかなかすべてを、実際に行うことは難しい。

どの世界でも一番問われるのは、リーダー(ボス)の役割である。最近ではそのボスの役割を理解していない場合が多い。聴講者である保護者に、家のボスは誰ですかと聞くと、多くの母親が「私よ」とうなずく。「父親ですよ」と私が言っても、首を横に振る。

最悪なのは、学校で子どもが悪いことをして先生に叱られたときに、親が先生に苦情を言うことだ。子どもはその光景を見て、今度は外のボスである学校の教員の言うことを聞かなくなる。そ

の子どもが社会に出たとき、上司・先輩の言うことも聞かなくなることを、親は知っておくべきだ。

今、父親が問題になりつつある。「親父モンスター」が増加している。社会的な経験が多い父親は、コミュニケーションがとりやすいと思われるが、普段とは主張の仕方が変わり、一度言ったことが引つ込められなくなるからだ。

親が子に関心を持つように、子どもも親の言葉、行動をよく見ている。子どもにとって、周りにいるすべての人々がアドバイザーとなる。

機会を見て、ゆっくりと「親父」の人生、仕事について語るのだが、「親父」の役割なのかもしれない。